令和元年度（2019）

事 業 報 告 書

米原市西山２０５番地３

公益社団法人米原市シルバー人材センター

公益社団法人米原市シルバー人材センター

令和元年度（2019）事業報告書

平成３１年４月１日～令和２年３月３１日

１．　事業概況

令和元年度は「人生 100 年時代」「働き方改革」等社会変化に対応する政策が具体的に打ち出され、また消費税増税の実施、年度末には新型ウイルス感染のパンデミック等事業運営には戸惑うことも多々ありましたが、センターとしては、総務省の調査報告（2015）による、高齢者の 3 大心配事は健康、お金、孤独、また、内閣府の調査では、3 割の高齢者が「健康が続く限り働き続けたい」等の結果を踏まえ、公益社団法人として、公を意識しつつ地域社会との信頼関係を確立し、地域の活性化に貢献することを目標に取組んでまいりました。

本年度における米原市シルバー人材センターの事業は、会員数は前年を上回りながらも契約金額および就業延人員等につきましては残念ながら天候不順、雪不足、新型コロナウイルス感染拡大等の影響を受け、努力およばず減少となりました。

今後、新型コロナウイルス感染拡大の状況がどのように推移するのかを見極めながら、多くのお客様からいただいております就業依頼に対しても、会員の安全を第一に考え就業先の依頼に対応いたします。

項　目	元年度（2019）	30 年度（2018）	対前年比（%）
会員数	798 人	784 人	101.8
契約金額	368,152,352 円	376,513,622 円	97.8
※うち派遣事業	131,436,192 円	130,713,163 円	100.6
就業延べ人員	79,234 人	80,116 人	98.9
※うち派遣事業	20,156 人	20,068 人	100.4

２．事業詳細

（1）安全で適正な就業の徹底について

安全就業への取り組みは、シルバー事業運営における最重要課題と位置付けて、安全講習会等による会員の安全意識の向上に努め、安全・適正就業委員会を中心に事故防止対策を講じた結果、事故件数は前年度を下回りましたが、油断大敵です。

主な取組み内容は、①安全適正就業委員会の定期開催、②安全パトロールの実施、③事故発生時における事故の分析と事故防止対策の強化、④交通事故防止に向けた安全運転診断を運転業務

就業者に対して 8，9 月に実施しました。１２月には安全大会の実施、令和２年１月に安全講習会の開催、また葉刈り剪定作業が本格化する前には、職群班長会議を開くなど安全就業の徹底を図りました。

また、安全標語の募集を通じて、２８名の会員から８０点の応募がありました。

〆最優秀賞 **“安全は 急がずあわてず 持つ余裕”**

〆優秀賞 **“完璧化 慣れた仕事に 落とし穴”** **“さあ今日も 元気で笑顔で 安全作業”**

入選作には３点の標語が選考され、12 月開催の安全大会で発表と表彰を行いました。また、毎月「安全メール」を発行し、全会員に事故情報等の共有化を図るとともに、新年には無事故安全就業を願い、岡神社にて安全祈願祭を執り行いました。

令和元年度事故報告ですが、傷害事故２件、賠償事故２件の事故が発生しました。内訳は、傷害事故（交通事故 1 件、裂傷１件）、賠償事故（車輌傷１件、物損事故の１件）でした。会員全員が、就業にあたっては基本に立ち返り、安全行動の徹底を図ることが大事であります。

一方、適正就業の推進については、「シルバー人材センターの適正就業ガイドライン」に基づき適正就業の徹底を図るとともに、施設管理就業についても「施設管理等就業基準」規程を見直し、適正かつ公平な就業に努めました。

（2）会員の増強活動について

前年度同様に、定期的な入会説明会を本部と近江母の郷コミュニティハウスで実施しました。入会促進活動の結果、95 人の出席（男性 59 人、女性 36 人）を得て、うち令和元年度の入会者は 87 人（男性 52 人、女性 35 人）、年度末の会員数は 798 人となりました。

令和元年度の目標であった女性会員の増強については、積極的に声掛けをした結果、前年を 14 人上回ることができましたが、家事援助等女性会員の就業受注は引き続き見込まれ、一層の努力を重ねてまいります。

（3）就業開拓・提供事業について

令和元年度の受託事業は、公共関係が前年比 4、890 千円の減、民間事業所関係は前年比 5,027 千円の減、一般家庭については前年比 852 千円の増となり、令和元年度の契約額は 236、716 千円となりました。一方、労働者派遣事業関係は 723 千円の増となり、契約総額では前年比 8,361 千円の減額となりました。受注拡大においては、理事会、委員会及び事務局の連携のもと期中より新規契約が相当数成立し、受託事業に寄与することができました。しかし「雪不足・就業業務内容の変更・新型コロナウイルス感染拡大」等の影響により既存の契約が大きく落ち込みました。

令和元年度 受託事業の契約額および会員数等は次のとおりです。

受託事業	**当期契約額（円）**	前期契約額（円）	増減額（円）

公共関係	33,082,780	37,992,294	△4,890,061
民間事業所関係	166,363,207	171,390,518	△5,027,311
一般家庭	37,270,173	36,417,647	852,526
計	236,716,160	245,800,459	△9,084,299
労働者派遣事業	131,436,192	130,713,163	723,029
契約総額	368,152,352	376,513,622	△8,361,270

●就業延べ人員

	令和元年度　（人）	３０年度　（人）	増　減
受託事業	59,078	60,048	△970
派遣事業	20,156	20,068	88
計	79,234	80,116	△882

●就業率（受託のみ）

	会員数（人）	就業実人員（人）	就業率（%）
男　性	499	367	73.5
女　性	299	262	87.6
計	798	629	78.8

●就業率（派遣含む）

	会員数	就業実人員	就業率（%）
男　性	499	454	91.0
女　性	299	284	95.0
計	798	738	92.5

（4）市指定管理事業

母の郷コミュニティハウスの指定管理業務は、これまでの経験を活かし坂田駅の利用促進と米原市民やシルバー会員の憩いの場を目的に、「いきいきご縁事業・田んぼっ湖カフェ」事業の更なる充実に挑戦しております。施設管理運営については、毎月就業会員と事務局との定例会を開催し、日々発生する課題を共有し解決に向けて努力しております。

（5）普及啓発事業

会員増強およびシルバー人材センターの PR 活動として、街頭啓発運動として他団体イベントに積極的に参加しました。また広報誌や啓発チラシの全戸配布。田んぼっ湖カフェの活用、伊吹山 CATV テレビやマスコミ等を通じてシルバー活動の普及啓発に努めました。

イベント参加については、4月、ほおずき市"に刃物研ぎ、軽食販売で出店、5月、春の交通安全イベント参加、9 月、秋の交通安全運動参加、10 月、やすらぎハウスイベント参加（うどん・コーヒ販売）11 月、山東文化祭には会員作品出展とたこ焼き販売、田んぼっ湖 2 周年イベント開催（毎度おおきにセール、売り上げ：365,010 円）、12 月、年末企業挨拶、1 月、広報シルバーまいばら全戸配布など、シルバー人材センターの活動を積極的にアピールし好評を得ました。

（6）調査研究事業について

令和元年度は、大阪商業大学豊島ゼミナール研修・実習来訪、3 市（彦根、長浜、米原シルバー人材センター）合同研修会開催、米原市・筑波大学・米原市シルバー人材センター共同研究実施、総額見積り研修会、インボイス研修会、日進市シルバー人材センター来訪研修、東海市シルバー人材センター来訪研修などを通して、独自事業、安全就業、職群班制度および福祉・家事援助に係る取り組み状況、高齢化社会への取り組み、シルバー人材センター会員と健康などに関する調査研究に努めました。

また、本年度は米原市、筑波大学等との高齢化社会における課題研究のコラボレーションも実現し、米原市シルバー人材センター情報を提供し、世界の高齢化先進国資料として学術的研究に協力しました。

（7）福祉・家事援助サービス推進活動について

高齢者世帯および共働き世帯が増加する中、行政と課題を共有しつつ、福祉・家事援助サービス推進委員会を 3 回、介護支援活動として料理、介護、清掃講習会を開催しました。3 月には沖島（近江八幡市）視察研修を予定していましたが、新型コロナウイルス感染防止の為やむなく中止しました。その他手作り弁当の販売、反射糸を使ったコサージュ作り、市の福祉大会や子育て支援に関する活動に積極的に参加しました。また、独自事業である「田んぼっ湖」と一緒にミニ畳作りにも挑戦し、会員拡大の啓発を行いました。

（8）職業紹介事業について

シルバー事業は、高齢法により高齢者に就業の機会を確保・提供する受託事業を中心に、また同法において就業を希望する高年齢者のために職業紹介事業を行うとされていますが、今年度の実績はゼロでした。

（9）安定的な運営基盤の確立について

令和元年度は、職員構成を従来の有期雇用嘱託職員のみでの運営から、正職員２名、嘱託職員８名とし、将来を見据えた長期安定基盤を目指すとともに、エイジレス機器活用のスキルアップも図り、事務の簡素化、効率化、また「理事会」「委員会」「班組織」等の役員各位と事務局との連携も深めることにも努め、組織の充実強化に取り組みました。

今後は、同一労働、同一賃金など働き方改革等の国家政策に基づく制度改革にも対応すべく人件費率も検討し、少数精鋭の運営に努めます。

また、シルバー人材センターの組織運営費は、国や市の補助金と事務手数料に依存していることには変わりなく、収支相償を原則とする公益法人の会計制度を、より柔軟に運営ができるよう国などの関係機関に引き続き要請を行いました。

（10）講習会について

お客様から常に求められるサービスを意識し、質の向上を図り、就業機会の拡大を目標として、会員や市民を対象とした講習会を実施しました。

【参加者数】 会員延 187 人、市民延５人

【主な講習会】 葉刈り講習会 3 回、安全講習会２回、安全運転技能講習会２回、掃除講習会、料理講習会、介護講習会、AED 研修会

（11）ボランティア活動について

7 月と 10 月のシルバー環境美化の日に、会員延 252 人の参加を得て、市内全域でクリーンパトロールを実施し、276 袋を回収していただき、市内の環境美化に努めました。

また淡海エコフォスター事業に参加し、10 月に天野川尻において会員延１３名の参加を得て、草刈り、ゴミ拾い、植木の手入れ等を行い、地域の環境美化に努めました。

また、美化活動の一環として、毎月初めには事務所周辺の清掃作業を職員一同で実施しました。

（12）いきいきご縁事業・田んぼっ湖カフェ

田んぼっ湖カフェは、地域の憩いの場、高齢者の生きがいを育む場として根付きつつあり、手作り家具を配したカフェではコーヒー、うどん、ピラフなどの飲食物の提供をはじめ、マルシェでは会員が育てた新鮮野菜や工芸品、手芸品なども販売し、市民や高齢者が気軽に立ち寄れる場所づくりに貢献しました。その結果として、カフェ就業会員 40 名、マルシェ出店会員 50 名が日々楽しみながらの就業拡大の場となり、来客人数は月平均 1,120 人、月の売り上げも 50～80 万円と推移し、令和元年度の売上額は6.854.345円、来客人数は13,435人となりました。経費面では、光熱費は当分の間本体負担とし、その他については田んぼっ湖カフェの売り上げより賄っており、カフェ就業会員の配分金は時間当たり２５０円～３８０円です。皆様のご利用をお願いいたします。